

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第44週 （10月28日～11月3日）

インフルエンザ予防接種はお早めに

インフルエンザワクチンを接種して抗体による予防効果が表れるには約2週間かかります。抗体は5ヶ月程度持続すると言われていたことから、流行が始まる12月頃までに接種することが望まれます。予防接種には、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症をある程度抑える効果や重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

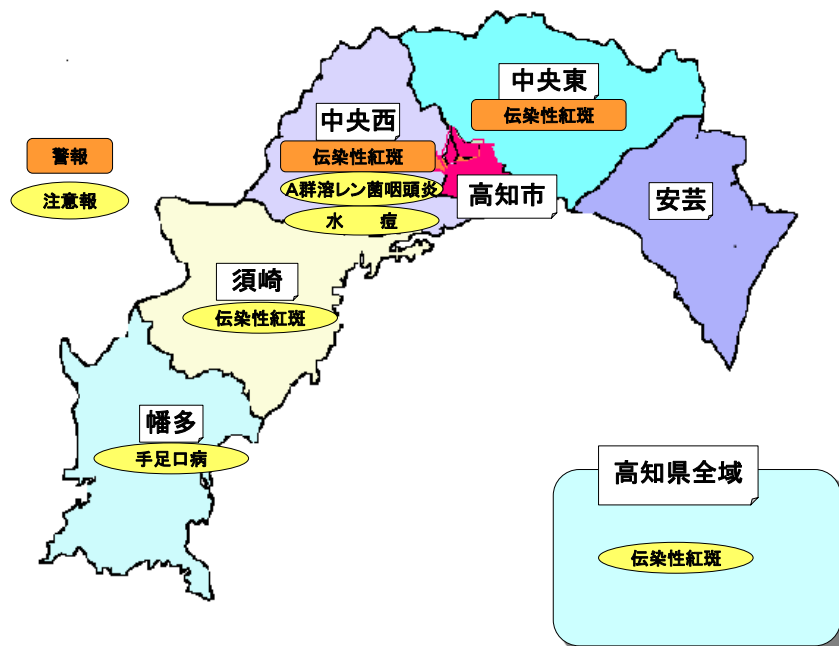
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑ : 急増
 ↗ : 増加
 → : 横ばい
 ↘ : 減少
 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	2. 1 3	須崎で減少していますが、中央西、幡多、安芸で急増、県全域、中央東で増加し、中央西では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	1. 7 3	安芸で急減、高知市で減少していますが、幡多、須崎で急増しています。
伝染性紅斑	↗	1. 0 7	幡多で急減していますが、中央西で急増、県全域、中央東で増加し、中央東、中央西では警報値を、県全域、須崎では注意報値を超えています。
手足口病	→	0. 8 0	中央東、須崎で急減していますが、幡多で急増、高知市で増加し、幡多では注意報値を超えています。
突発性発疹	↑	0. 3 3	須崎で急減していますが、県全域、高知市、幡多、中央東で急増しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

予防接種は大切です。

予防接種とは、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。ワクチンを接種した方が、病気にかかることを予防したり、人に感染させてしまうことで社会に病気が蔓延してしまうのを防ぐ効果があります。また、病気にかかったとしても、ワクチンを接種していた方は重い症状になることを防げる場合があります。

●高知県庁ホームページ 健康対策課感染症対策 予防接種について

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kansen-yobousessyu.html>

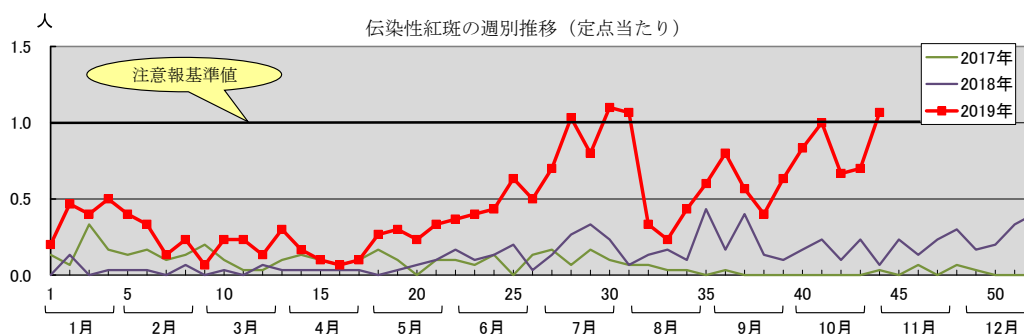
★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

○伝染性紅斑（リンゴ病）気を付けて！

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。

7日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発しんが出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。



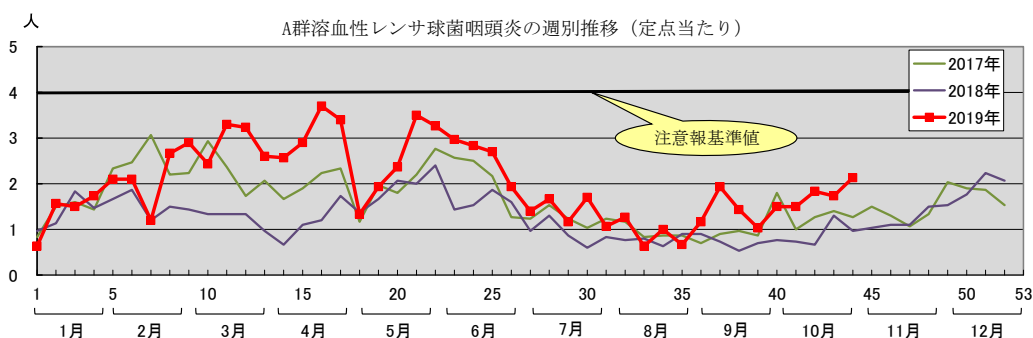
<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

この病気はA群レンサ球菌による上気道感染症です。

典型的な症状は、2～5日の潜伏期を経て、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌などがみられます。1週間以内に症状は改善しますが、まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる全身症状を呈することがあります。



<予防方法> 手洗い、咳エチケットが有効です

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」あるいは細菌が付着した手で口や鼻に触れる「接触感染」が主な感染経路になります。患者との濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットを心掛けましょう。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

第44週に日本紅斑熱の発生届けが安芸福祉保健所と高知市保健所から1例ずつ報告されています。

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
44	手足口病	37℃,発疹,	1	女	須崎	Human herpes virus 6
44	—	38℃,	12	男	須崎	Human herpes virus 7
44	インフルエンザ	38℃,咳嗽,	11	女	高知市	Influenza virus A H1pdm09

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
43	不明発疹症	40℃,発疹,	1	女	須崎	Cytomegalovirus
43	—	39℃,	2ヶ月	女	高知市	Human herpes virus 6
43	急性咽頭炎	—	1	男	中央東	Human herpes virus 6
43	気管支喘息急性増悪（大発作）	38℃,咳嗽,気管支炎,	6	女	中央東	Rhinovirus

＜国内の手足口病由来ウイルス検出状況＞

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間（2019年第36週～第40週）では、Coxsackievirus A16の検出割合が最も多く67%（53件）、次いでCoxsackievirus A6が6%（5件）、Rhinovirusが6%（5件）、Echovirus 18が5%（4件）、Coxsackievirus A10が3%（2件）、Coxsackievirus A9が1%（1件）、Parecho virus 3が1%（1件）、Human herpes virus6が1%（1件）となっています。

＜国内のインフルエンザウイルス検出状況＞

国内のインフルエンザウイルス検出状況は、今シーズン直近5週（2019年第39週～第43週）では、AH1pdm09の検出割合が最も多く89%（95件）、次いでAH3が7%（7件）、B（ビクトリア系統）が4%（4件）となっています。

また、インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型7件、インフルエンザB型1件の報告があります

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所	
2類	結 核	1	98	80歳代 女	須 崎	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	50歳代 女	中央東	
4類	E型肝炎	1	1	80歳代 男	高知市	
	日本紅斑熱	1	9	80歳代 男	安 芸	
70歳代 女		高知市				
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		1	20	20歳代 男	高知市
			1		80歳代 男	
		1	90歳代 女			
5類	百日咳	1	151	5～9歳 男	幡 多	
		1		5～9歳 男		
		1		5～9歳 女		
		1		5～9歳 女		
		1		10～14歳 女		

★定点医療機関からのホット情報

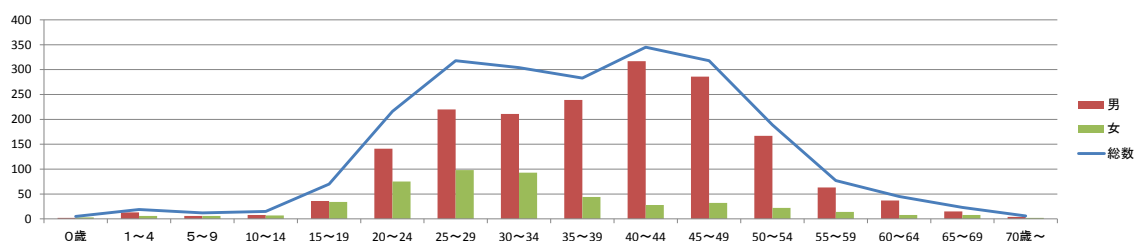
保健所	医療機関	情 報
中央東	おひさまこどもクリニック	hMPV 気管支炎 2 例（4ヶ月男、5歳男：兄弟） カンピロバクター腸炎 1 例（10歳男）
	早明浦病院小児科	保育園で手足口病続く
高知市	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター腸炎 1 例（12歳） マイコプラズマ肺炎 1 例（5歳：Lamp法） マイコプラズマ 1 例（10歳女：Lamp法）
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 2 例
中央西	石黒小児科	マイコプラズマ感染症 2 例（3歳女、4歳女）
	くぼたこどもクリニック	口唇ヘルペス 1 例（9歳男）
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 1 例（5歳女）
須 崎	もりはた小児科	ノロウイルス胃腸炎 1 例（10ヶ月男）
幡 多	こいけクリニック	hMPV 肺炎 2 例（1歳女、3歳男） ノロウイルス胃腸炎 3 例（10ヶ月男、1歳男女）
	さたけ小児科	hMPV 2 例（0歳男、4歳女） マイコプラズマ 1 例（4歳男） 百日咳 1 例（8歳女：Lamp法陽性） インフルエンザ A 型 1 例（7歳男）
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 2 例（4歳男女）

★県外で注目すべき感染症

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019年第1週～43週の報告数は2,245人となっており（2018年の同時期全国で1,739人）、95%（2,124人）が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に（男性1,765人、女性480人）に報告数の多い状態が継続しています。

2019年累積風しん報告数(年齢別・性別)



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府以外に福岡県、愛知県、兵庫県、北海道、佐賀県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなどさらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ
感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染
潜 伏 期 間 : 2~3 週間程度
感染性のある期間: 発疹のでる 7 日前から発疹出現後 7 日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。
抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

また、風しんの追加的対策として 2019 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで以下の対象者は無料の風しん抗体検査及び定期の予防接種(第 5 期)を実施しています。

2019 年度は、

・1972 年（昭和 47）年 4 月 2 日から 1979 年（昭和 54）年 4 月 1 日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

・1962（昭和 37）年 4 月 2 日から 1972（昭和 47）年 4 月 1 日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

受診可能な医療機関をご確認のうえ、各医療機関にお問い合わせください。厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第 5 期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

なお、受診時には本人確認（免許証、マイナンバーカードなど）ができる書類をご持参ください。

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 859 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- 1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- 2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

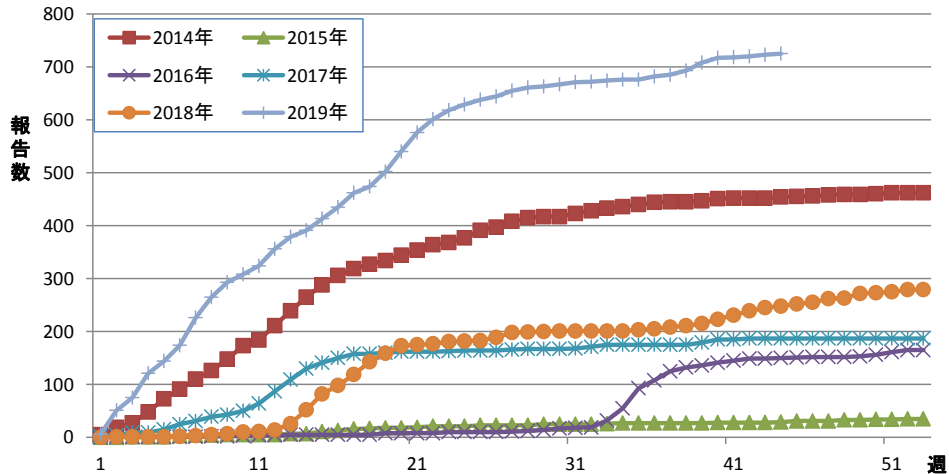
●衛研ニュース第 20 号（高知県衛生環境研究所）30~50 歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

○麻疹に気を付けて！

麻疹については、平成 27 年 3 月 27 日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外で感染した患者を契機とした国内での感染の拡大事例が散見されています。2019 年第 1 週～43 週の全国の麻疹の報告数は 725 人と過去 5 年で比較して多い状態が継続しています（累積報告数：2014 年 462 人、2015 年 35 人、2016 年 165 人、2017 年 187 人、2018 年 279 人）。今後、感染の拡大する可能性がありますので注意してください。

麻疹累積報告数推移(全国)



予防にはワクチン接種が有効です。定期接種の対象年齢になったら、予防接種を受けましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

(高知県健康対策課 平成 31 年 3 月 4 日付け 30 高健対発第 1886 号「麻疹発生報告数の増加に伴う注意喚起」より)

- ① 発熱や発しんを呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、麻疹の罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻疹を意識した診療をお願いいたします。
- ② 麻疹を疑う患者を診察した場合は、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所に連絡し、確定診断のための県衛生環境研究所でのウイルス検査を行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へご連絡をお願いします。また、麻疹患者と確定した場合は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号）第 12 条第 1 項の規定に基づき、所在地を所管する県福祉保健所又は高知市保健所へ速やかに届け出るとともに、麻疹の感染力の強さに鑑みた院内感染予防対策をお願いいたします。

●医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 平成30年5月（国立感染症研究所疫学センター）

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/guideline/medical_201805.pdf

●麻疹について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

●麻疹（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは 2019 年 11 月 5 日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第44週 令和元年10月28日(月)～令和元年11月3日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(43週)	高知県(44週末累計) H30/12/31～R1/11/3	全国(43週末累計) H30/12/31～R1/10/27
インフルエンザ				1	3		4	8 (0.17)	6 (0.13)	3,953 (0.80)	13,912 (289.83)	1,468,515 (297.51)
咽頭結核熱					1	1		2 (0.07)	15 (0.50)	1,223 (0.39)	710 (23.67)	57,828 (18.34)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	4	33	16	2	7	64 (2.13)	52 (1.73)	5,238 (1.65)	2,631 (87.70)	272,896 (86.55)
感染性胃腸炎			15	23		1	13	52 (1.73)	51 (1.70)	9,282 (2.93)	4,765 (158.83)	658,504 (208.85)
水痘		1		3	3		1	8 (0.27)	7 (0.23)	906 (0.29)	330 (11.00)	42,291 (13.41)
手足口病			4	4	2		14	24 (0.80)	25 (0.83)	4,239 (1.34)	2,579 (85.97)	373,383 (118.42)
伝染性紅斑		1	17	6	6	2		32 (1.07)	21 (0.70)	1,846 (0.58)	615 (20.50)	91,541 (29.03)
突発性発疹		1	1	6			2	10 (0.33)	4 (0.13)	1,073 (0.34)	434 (14.47)	54,275 (17.21)
ヘルパンギーナ								()	3 (0.10)	953 (0.30)	750 (25.00)	93,046 (29.51)
流行性耳下腺炎				1				1 (0.03)	1 (0.03)	237 (0.07)	41 (1.37)	13,194 (4.18)
RSウイルス感染症				2		2	5	9 (0.30)	14 (0.47)	3,181 (1.00)	1,235 (41.17)	123,312 (39.11)
急性出血性結膜炎								()	()	3 ()	1 (0.33)	289 (0.42)
流行性角結膜炎								()	1 (0.33)	394 (0.57)	56 (18.67)	19,350 (27.88)
細菌性髄膜炎								()	1 (0.13)	8 (0.02)	3 (0.38)	385 (0.80)
無菌性髄膜炎				1				1 (0.13)	()	20 (0.04)	5 (0.63)	648 (1.35)
マイコプラズマ肺炎				3				3 (0.38)	1 (0.13)	179 (0.37)	120 (15.00)	4,102 (8.56)
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								()	()	4 (0.01)	4 (0.50)	80 (0.17)
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)								()	()	3 (0.01)	90 (11.25)	4,649 (9.71)
計 (小児科定点当たり人数)		5 (2.50)	41 (5.85)	83 (7.15)	31 (9.93)	8 (4.00)	46 (8.90)	214 (6.90)		32,742	28,281 (759.51)	3,278,288
前週 (小児科定点当たり人数)		6 (2.75)	44 (6.29)	95 (8.37)	15 (4.87)	15 (7.25)	27 (5.20)		202 (6.55)			

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

第44週

定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(43週)	高知県(44週末累計) H30/12/31～R1/11/3	全国(43週末累計) H30/12/31～R1/10/27
インフルエンザ				0.06	0.60		0.50	0.17	0.13	0.80	289.83	297.51
咽頭結核熱					0.33	0.50		0.07	0.50	0.39	23.67	18.34
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.00	0.57	3.00	5.33	1.00	1.40	2.13	1.73	1.65	87.70	86.55
感染性胃腸炎			2.14	2.09		0.50	2.60	1.73	1.70	2.93	158.83	208.85
水痘		0.50		0.27	1.00		0.20	0.27	0.23	0.29	11.00	13.41
手足口病			0.57	0.36	0.67		2.80	0.80	0.83	1.34	85.97	118.42
伝染性紅斑		0.50	2.43	0.55	2.00	1.00		1.07	0.70	0.58	20.50	29.03
突発性発疹		0.50	0.14	0.55			0.40	0.33	0.13	0.34	14.47	17.21
ヘルパンギーナ									0.10	0.30	25.00	29.51
流行性耳下腺炎				0.09				0.03	0.03	0.07	1.37	4.18
RSウイルス感染症				0.18		1.00	1.00	0.30	0.47	1.00	41.17	39.11
急性出血性結膜炎											0.33	0.42
流行性角結膜炎									0.33	0.57	18.67	27.88
細菌性髄膜炎									0.13	0.02	0.38	0.80
無菌性髄膜炎				0.20				0.13		0.04	0.63	1.35
マイコプラズマ肺炎				0.60				0.38	0.13	0.37	15.00	8.56
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										0.01	0.50	0.17
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)										0.01	11.25	9.71
計 (小児科定点当たり人数)		2.50	5.85	7.15	9.93	4.00	8.90	6.90			759.51	
前週 (小児科定点当たり人数)		2.75	6.29	8.37	4.87	7.25	5.20		6.55			

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第44週)

